

# 那須烏山

— No.122 —

2015  
November

11

Public Relations Magazine  
of Nasukarasuyama City

18歳選挙権成立 これからの選挙を考えよう。…	2
デマンド交通の区域を一部変更……………	8
平成27年度全国学力・学習状況調査の結果 …	10
市文化祭が盛大に開催……………	12
子どもたちが秋の実りを収穫……………	14
こども館まつり……………	16
まちの話題……………	18
インフォメーション……………	20
図書館まつり……………	22



まっくろけの手(10月13日、つくし幼稚園サツマイモ掘り) ※14ページに関連記事掲載

# 18歳選挙権成立

これからの選挙を  
考えよう。

図1：選挙権の歴史

年		有権者の資格
明治22年 (1889年)	制限選挙	直接国税15円以上を納める25歳以上の男子
明治33年 (1900年)		直接国税10円以上を納める25歳以上の男子
大正8年 (1919年)		直接国税3円以上を納める25歳以上の男子
大正14年 (1925年)	男子普通選挙	25歳以上の男子
昭和20年 (1945年)	男女平等普通選挙	20歳以上の男女
平成27年 (2015年)		18歳以上の男女

平成27年6月の公職選挙法の改正により、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられました。この法律は、来年夏の参院選から適用される見込みとなっており、今、世間で注目を集める話題の一つです。

これを受け、市選挙管理委員会では、地元の烏山高校と連携した選挙啓発出前講座や生徒会役員選挙における模擬投票を行うなど高校生等の主権者意識を高める「主権者教育」としての取り組みがスタートしています。

今月号では、取り組みを紹介しながら、この主権者教育とは何か、そして、地域に住む大人にできることは何かを考えていきます。

### 新たな有権者は24万人 本市でも500人が有権者に

平成27年6月17日、選挙権年齢を18歳以上に引き下げる公職選挙法等の一部を改正する法律が成立しました。公

布から1年後の国政選挙から適用されることとなり、来年夏の参院選から18歳になった高校3年生などが投票できる見通しとなっています。昭和20年に25歳から20歳に引き下げて以来70年ぶりの改革であり、

今回、18歳・19歳の約240万人が新たに有権者となります(図1参照)。これは現有権者数の約2・3%に当たり、本市でも新たに約500人の有権者が誕生することになります。

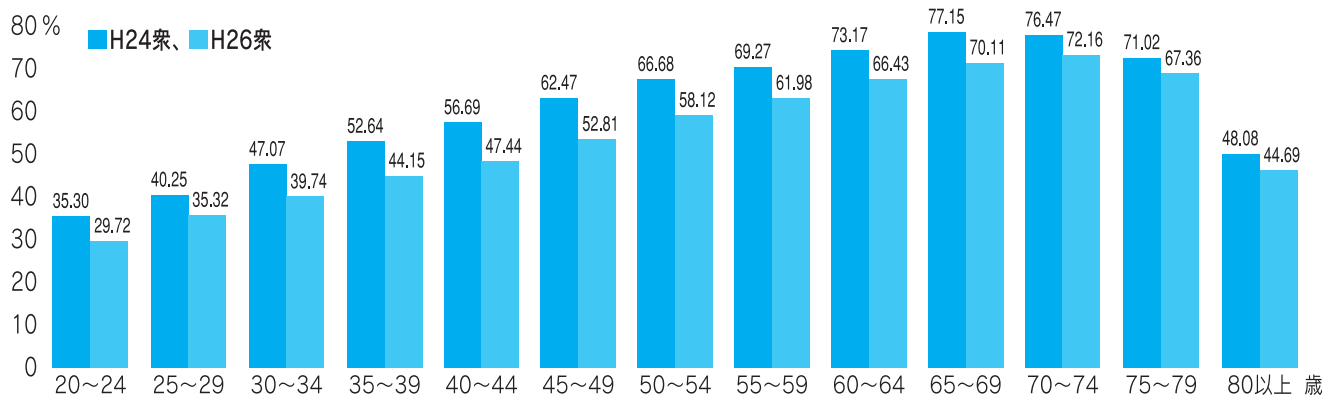
世界では約9割の国々で既に18歳以上に選挙権が認められています。近年では、16歳以上に引き上げる動きも活発に見られ、18歳選挙権はもはや世界的な傾向となっています。

### 選挙権年齢の引き下げで何が変わるの？

近年、国政選挙、地方選挙とも投票率が低下傾向にあります。特に、平成26年12月に行われた第47回衆議院議員総選挙では、20歳台前半の投票率は29・72%と他の世代に比べて低い状況となっています(表1参照)。

しかし、選挙権年齢の引き下げで早ければ高校3年生から投票できるようになることから、学校教育で政治や選挙に関する教育が進んだり、学校で選挙が話題になったりすることで政治に

表1：衆議院議員総選挙における年齢別投票率



※全国投票区の中から標準的な投票率を示す投票区を各都道府県の市区町村から計188投票区を抽出し、その平均を求めたもの。(出典：総務省調査結果より)



関心を持つ生徒が増えることが期待されます。そして、それが波及して若年層全体の選挙への関心が高まれば、低迷してきた投票率を底上げする可能性があると言われています。

また、「シルバー民主主義」といわれるように、近年、人数が多く投票率も高い高齢者偏重の政治が行われてきました。しかし、選挙権年齢の引き下げにより、若年層の意識が変わり、投票率が高くなれば、政治家の姿勢も変化し、将来を担う世代を重視した政策が実現されていくのではないかと注目されています。

さらに、次の段階として、選挙に立候補することができる被選挙権の年齢も引き下げられると、若者が同世代の間を議会に送り出すこととなり、今の政治の仕組みが変わっていくかもしれません。

## 鳥高校生、政治に対してあまり関心がない等が7割

一方で、実際に選挙権年齢が引き下がり、影響を受ける若者たちの意識はどうか。

今年7月に鳥山高校の全校生を対象に行われた意識調査では、「18歳になったら選挙で投票できることをどう思いますか」という問いに対し、全体の約3割が「投票してみたい」と答えた一方で、約7割が「社会に出ていないので投票することに戸惑いを感じる」「20歳のままで良かったと思う」と答えました

表2：18歳になったら選挙で投票できることをどう思うか。

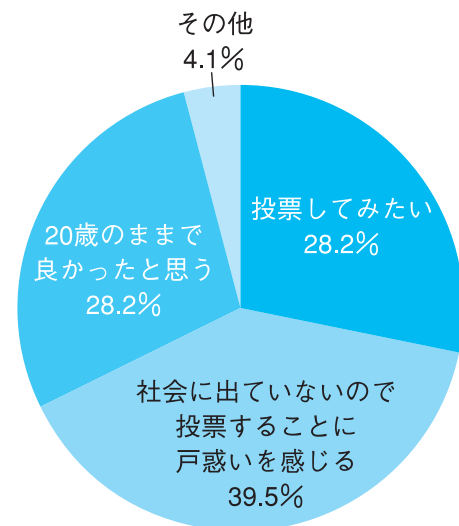
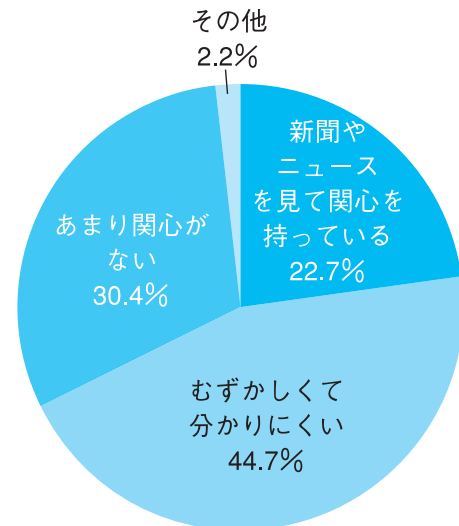


表3：政治についてどう思うか。



出典：鳥山高校の全校生徒を対象とした意識調査の結果より。

## 鳥山高校×選挙管理委員会コラボ企画！ 高校生4人と佐竹委員長が初対談

市選挙管理委員会委員長の佐竹信哉さんに来年から選挙権が与えられる高校2年生の疑問を対談方式で聞いてみました。不安を抱く4人の生徒たちの本音を聞いてみましょう。



佐竹信哉さん

**佐竹**…選挙権が18歳に引き下げになるって聞いてどう思った？

**高野**…他の国と比べて日本は選挙権年齢が高かったので普通だと思います。

**池田**…私は、とっても不安になりました。今も正直、不安です。

**佐竹**…そうか…、来年初めてだもんね。選挙には行ってみようと思う？

**高野**…あと心配なのは、投票の仕方がわからないときは、その場で誰かに聞く事はできるのでしょいか…この前は、学校だからできたけど、実際に本当の選挙ではそんなことないですよ。

**佐竹**…ちゃんと係の人が教えてくれるよ。名前を確認されて投票用紙を渡されて記載台に行く、そして投票箱に入れる。道順

(表2参照)。

政治への関心についての設問でも「新聞やニュースを見て関心を持って」と答えた生徒は全体の2割程度で、7割を超える生徒が「難しくて分かりにくい」や「あまり関心がない」と答える結果となりました(表3参照)。

全国的な結果と比較しても同様の意識が見られたことから、本市でも、関心が薄い若者に対して、政治への関心や知識、知恵を持つてもらえるような取り組みを推進していくことが求められています。

## 政治への興味・関心を！ 主権者教育の充実

若者の政治への興味・関心を持たせるために今、重要視されているのが「主権者教育」です。

主権者教育とは、子どもから高齢者まであらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者を育てる教育をいいます。

有権者になる前に、模擬選挙などを通じて有権者になるためのトレーニングや、政治や選挙について考え、身近に感じることで、主権者意識を育み、賢い有権者になることが大切だとされています。

最近では、各地で選挙管理委員会と学校が連携し、中高生に対する主権者教育として選挙出前講座や模擬投票が行われています。



渋井沙樹さん



高野駿さん



池田奈々美さん



田代崇文さん

田代…行くとは思いますが。

渋井…私も行ってみようと思います。親も行っておいたほうがいいよと言っていたので。

佐竹…最近では、選挙に行かない若い人が増えているけど、何でだと思ってる？

田代…高齢者中心の政策が多いから自分には関係がないと思ってるのでは。正直、政治が難しい…。年齢に応じて伝え方を変えたほうがいいと思います。

佐竹…確かにそうだね、そうだったことが多いかもしれないね。他にはある？

池田…自分の投票した一票だけでは何も変わらないと思うからじゃないですかね？

高野…そもそも行く気が起きないのかな…。投票所の雰囲気も独特で入りづらいう…。

渋井…学校で、生徒会選挙を実際の記載台や投票箱など使って本番の選挙のような体験をしましたが、シーンとしていて、また選挙に行きたいとは思える雰囲気ではなかった気がします。気楽に投票にいくようにしたほうがいいと思います。

池田…音楽とかかけたほうがいいんですか？

佐竹…選挙当日には、音楽を流しているよ。でも、公正を保つために、音楽も歌詞が入っていたりするのは流すことは難しいんだ…。ポップスだったらいいかな？

全員…(笑)

は流れて行けるようになっていから心配しなくても大丈夫だよ。それに、どこの投票所もやり方は統一されているから、一度行けば次からは不安な気持ちにならないと思うよ。

高野…わかりました。分かりやすくなっているんですね。

佐竹…さっき、生徒会選挙で本番のように選挙をやったと言っていたけど、やってみてどうだった？

渋井…思っていたのとは違いました。投票用紙を渡されて、その場で記入したり…。いい体験ができました。

池田…私は、学校の選挙管理委員だったので、投票事務のほかに開票も体験しました。間違えてはいけない分、何時間もかかってすごく大変な思いをしました。

佐竹…本当の選挙はもっと時間がかかるんだよ。

池田…どれくらいかかるんですか？

佐竹…国政選挙だと立候補者も多かったりするから、夜中の2時とか…。

全員…。(苦笑)

佐竹…せっかくこういった経験をしたのだから、やがて、みなさんも選挙に携わるようになってほしいです。その反面、みなさんには票を入れてもらう立場にもなっていると思います。今日はみんなの意見が聞けてよかったです。ありがとう。

全員…こちらこそ、今日はありがとうございました。

## 市選挙管理委員会 烏高との連携積極的に

市選挙管理委員会でも10代に対する主

権者教育の推進を今年度の重要課題と位置付けています。

その中でも特に力を入れているのが烏山高校と連携した取り組みです。



上:初めての投票をする生徒たち/下:選挙管理委員会の生徒が開票作業を体験(ともに烏山高校生徒会選挙より)。

7月13日(月)に行なった選挙啓発出前講座では、全校生徒を対象に今回の18歳選挙権の成立の背景やその意義、今後行われる選挙日程、投票をする際の心構えなどを選挙管理委員会が講義しました(本紙8月号でも掲載)。

9月7日(月)に行われた生徒会役員選挙では、実際の選挙で使用している投票箱や記載台、本番で使う規格と同様の投票用紙を使用し、選挙を行いました。また、市選挙管理委員会委員も投票立会人として参加し、出来るだけ実際の選挙に近い空間や雰囲気を作り出し、生徒に「選挙」を体験してもらう取り組みを行いました。

開票も選挙で使われている開披台や集計機材を使用して行い、烏山高校の選挙

管理委員会には、選挙の裏方を経験してもらいました。

このように高校生に選挙事務を体験してもらおう取り組みは、全国的にも広がっています。今年4月の栃木県議会議員選挙で鹿沼市が行ったほか、神奈川県や静岡県内の市町では以前から高校生の選挙事務体験が取り入れられ、高校生に選挙への関心を持つてもらおう取り組みとして注目されています。

市選挙管理委員会では、こうした実際の選挙で行われている事務体験も、今後の烏山高校との連携の中で積極的に取り入れていくこととしています。

## 地域に住む大人にできること?

これまで、選挙権年齢が引き下がることに対しての現状や課題、主権者教育のあり方、選挙管理委員会の取り組みなどを紹介してきました。では、地域の大人ができることはなんなのでしょう。そこで、18歳を迎える子どもを持つ保護者と選挙管理委員会の皆さんにお話をうかがいました。

### 18歳を迎える子どもを持つ親として 私たち親も行動を…

小川貴子さん(藤田)

選挙権が18歳に引き下げになったというニュースを見たときは、未来を背負う若者が期待されている証拠なのだと感じました。しかし、一方で、来年、18歳を迎え



### 若い世代が積極的に選挙に参加してもらうために…

那須烏山市選挙管理委員会委員長

佐竹信哉さん(社長)

市選挙管理委員会では、選挙権年齢引き下げを見越し、昨年からは烏山高校にアプローチをしてきました。本格的に連携が始まったのは、今年の4月。会議を積み重ね、7月には選挙啓発出前講座、9月の生徒会役員選挙では、実際の選挙で使用する投票箱や記載台を使って選挙を行うなど、主権者教育に力を入れています。



左から、大橋敢さん、佐竹信哉さん、久郷啓二さん、星宮純一さん。



る子どもを持つ私にとっては、とても複雑な気分でした。

「果たしてうちの子が責任を持って投票ができるのか」ということです。よその子を見ると「あの子はしっかりしていそうだから大丈夫」と思うけれど、自分の子となると話は別です。

烏山高校に通っている息子は、授業などで選挙に関することを学んでくるため、家でも私に政治や選挙のことについて聞いてくるようになりました。でも、正直、聞かれても分からず答えられないことばかり。「親としてなにをしてあげたらいいのだろう?」と考えさせられました。そう考えたときに、自分も分からないなら一緒に学べばいいのだということに気づきました。それからは、テレビで政治

について放送されているときは一緒に見て考えるようにしています。

あとは、やはり自分たち親が選挙に行く姿を見せなければ、子どもたちも行かないんじゃないかなと。最初は「正しい判断」なんてできないと思います。私たち大人だって正しい判断ができていかと聞かれたら分かりません…。選挙権を与えられているからには「選挙に行き投票する」という責任を果たすことが1番大切だと私は思っています。親としてできることはまだまだたくさんあると思います。私たち親も受け身ではなく、小さなことでもいいから何か行動を起こさなければいけないんじゃないかなと、感じています。

しかし、生徒からは「選挙を身近に感じない」という意見が多く寄せられました。確かに、昔は親が小さな子どもを連れて選挙に行くなど、小さなうちから何らかの形で選挙に関わることがありました。今は、どうでしょうか?子どもたちが選挙に関わるのは選挙権が与えられてから。その点から、選挙を身近に感じられないという意識が生まれているような気がします。

選挙管理委員会でも、できるだけ選挙に足を運んでもらえるような取り組みは考えていきますが、家庭でも呼びかけてもらうことが1番効果的だと思います。ぜひ、家庭でも政治や選挙について考える機会を持つたり、一緒に選挙へ行ったりするなどしてほしいです。

実は、これまでも若い世代の投票率は

あけるといふ問題は、何十年も課題でした。どの市町村でも解決の一步を踏み出せていなかったということが事実です。でも、今回の法改正をきっかけに、若い世代の意見を聞くことができ、気づかされたことがたくさんありました。こういった世代の意見を聞く機会を増やして、市内に住む若い世代が政治に興味を持ち、選挙に行こうと思つてもらえたら良いと考えています。

また、今後は、市内で選挙の啓発活動を行う団体「明るい選挙推進協議会」の活動を充実させ、その啓発などの活動に高校生にも参加してもらい、少しでも関わってもらうことで、選挙が他人事ではなく自分事に思つてもらえるような意識を植え付けていきたいと思っています。

## 若い世代の問題だけじゃない!大人たちも見直してみませんか?選挙について。

選挙権年齢18歳への引き下げ…。あなたは、どう思いますか?来年の7月に行われる参院選で初めて有権者となるであろう全国240万人の若い世代の人たち。「政治をちゃんと理解できるのか?」、「責任を持って投票をすることができるのか?」という不安は、本人たち、そして多くの大人たちが抱いている疑問です。

その不安を拭い取るために、各地に設置される選挙管理委員会では、学校と連携するなどして「主権者教育」に力を入れています。しかし、この取り組みをしたからといって「選挙に行こう」と、実際に選挙に足を運ぶとは限りません。それは、主権者教育が、政治への興味・関心を持たせるためのきっかけづくりにすぎないからです。

では、どうしたら若い世代が選挙に行くのでしょうか…。選挙権を獲得した18歳が初めての選挙に行くのは、とても心細いはず。そんな若い世代を支えることができるのは、家族や身近な大人だといわれています。

これを読んでいる大人のみなさんは「選挙権年齢18歳へ引き下げ」は、若い世代の問題だと思いませんか?実は、子どもから大人までみんなが考えていかなければいけない問題なのです。

一番身近な存在の家族と一緒に、なって投票に行くこと、そして、一緒になって政治や選挙に関して考える時間を作ること、それが大人の役目なのではないでしょうか。それがこれからの政治、日本の未来に大きく関係していくはず。これをきっかけに選挙について改めて考えてみませんか…?

# デマンド交通の区域を一部変更

## 指定施設に烏山台病院を追加しました

デマンド交通利用者への利便性向上のため、10月1日(木)から運行区域を一部変更し、指定施設「烏山台病院」を追加しました。

▼変更内容※太文字が変更された場所

### 【烏山地区】

①運行区域：A地区：白久・大桶・谷浅見・中山・滝田・興野・大沢宮原  
 / 共通地区：中央・城東・表・旭・初音・南・金井・愛宕台・城山・神長・滝野上 / B地区：大木須・小木須・小原沢・下境・上境・横枕・向田・落合  
 ②指定施設：市役所南那須庁舎・保健福祉センター・南那須図書館・烏山台病院

### 登録者数及び利用率(9月30日現在)

#### <烏山地区>

利用登録者数	1,029人
利用者数	338人
利用率	32.8%

#### <南那須地区>

利用登録者数	1,110人
利用者数	408人
利用率	36.8%

### 【南那須地区】

①運行区域：全区域共通  
 ②指定施設：市役所烏山庁舎・那須南病院・山あげ会館・烏山台病院  
 ▼利用料金：1回300円 / 小学生・障がい者150円

登録手続きも簡単です。まず登録してください。自宅から乗り降りできますので安心してご利用ください。

■総合政策課秘書政策室

☎0287-83-1112





妊娠期の不安を解消！

## 妊婦サロンでママたちと交流深める

市では、妊娠期の地域交流や母親同士の情報交換、不安など



バランスボールを使った運動を楽しむ。

を解消することを目的に、保健福祉センターで「妊婦サロン」を開いています。

サロンでは、専門の講師を招き、妊娠期の食事のとり方や、赤ちゃんの抱き方など妊娠中の過ごし方、マタニティヨガなどを行っています。

10月15日(木)に開いたサロンでは、産後セルフケアインストラクターの佐藤直子さんを講師として招き、産後2ヶ月から6ヶ月未満の母親を対象に、バランスボールを使った産後のシェイ

プアップを行いました。参加者は、バランスボールに座って運動をしたり、音楽に合わせて機敏に手足を動かす運動をしたりするなど、日頃の運動不足を解消していました。

初めて参加したという廣田千明さん(宇井)は、「普段、外に出ることや身体を動かす機会がなかったのので、今回参加してリフレッシュすることができた。雰囲気も良く、また参加してみたいと思った」と笑顔で話していました。

## とちぎ夢大地応援団が農地保全のお手伝い

### 大木須と小木須に100人集う

農地や農村に関心のある人たちで結成する「とちぎ夢大地応援団」が、本市で農地の保全復旧などのボランティア活動を行いました。

10月17日(土)には、小木須の国見地区で同団員や宇都宮大学の学生約70人が地元自治会や国見棚田保全組合と協力をしながら、棚田周辺の草刈りなどをしました。また、18日(日)には、大木須で活

動が行われ、同団員30人や一般社団法人里山大木須を愛する会が休耕田や古民家周辺の保全に取り組みました。

国見地区での活動に参加した宇都宮大学農学部2年の早川黎さん(宇都宮市)は、「百選に選ばれている棚田を復活させてほしい。そのために協力をしていきたい」と話していました。



国見地区の保全活動をした参加者。

## 平成27年度コミュニティ助成事業報告

財団法人自治総合センターの平成27年度コミュニティ助成事業(宝くじの助成)を活用し、南大和久自治会ではお囃子太鼓や盆踊り太鼓、下境自治会では、獅子太鼓や獅子頭などを新調しました。

■総合政策課 ☎0287-83-1112



上:南大和久自治会。下:下境自治会。



## シルバー事業普及啓発月間に合わせ

### 地域の美化活動に貢献

市シルバー人材センターでは、10月17日(土)、シルバー事業普及啓発月間に合わせ、地域の美化活動を推進しようと会員約90人による奉仕作業を行いました。

作業は、南那須公民館から市役所南那須庁舎や、清水川せせらぎ公園周辺の草刈りなどを約4時間かけて行いました。その後、会員たちは南那須公民館で安全就業講習会を受講し、作業中に起こりうる事故の対処法などを学びました。



地域の美化に努めるシルバー会員。

# 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果

小学6年生と中学3年生を対象に文部科学省による「全国学力・学習状況調査」が行われ、本市でも全ての小・中学校が参加しました。本調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握し、児童・生徒への指導や学習状況の改善等に役立てるために行われています。学力調査については、国語と算数(数学)に加え3年ぶりに理科が対象となり、3教科で実施されました。国語と算数(数学)については、それぞれ、A問題(主として「知識を問う問題」とB問題(主として知識を「活用」する力を問う問題)に分けて出題されました。理科については、「知識」を問う問題と「活用」する力を問う問題が合わせて出題されました。

また、学習状況調査については、子どもたちに生活習慣や授業への取り組みなどを質問紙によって尋ねる方法で実施されました。なお、本調査により把握できる学力や学習状況は一部分のため、すべてを測ることはできません。本市の調査結果概要と傾向は次のとおりです。

## 学力調査

本市全体の結果は、小・中学校において各教科とも全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でした。

小学校の国語においては、「書くこと」の領域の問題や、「漢字を正しく書く」問題が全国の平均正答率を上回りました。また、算数においては、基礎的

な四則計算(足し算・引き算・掛け算・割り算)の問題が高い正答率でした。

中学校の国語においては、「読むこと」の領域の問題が全国の平均正答率を上回りました。また、理科においては、化学や地学に関する問題が全国の平均正答率を上回りました。

一方で、「割合に関する問題」(小学校算数B)や「根拠を明確にして自分の考えを書く問題」(中学校国語B)など、全国で正答率の低い問題は、本市においても同様の傾向がみられました。

### ■結果から分かること

各学校において、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して考えたり表現したりする力を伸ばすための取り組みが行われ、着実に成果が現れています。

現在、各学校では、様々な調査結果を詳細に分析するとともに、改善に向けた計画を作成し、学力向上に向けて継続的な取り組みが実践されています。

## 学習状況調査

質問紙調査のため、「している」及び「どちらかといえばしている」を肯定的な回答として集計し、全国と比較しました。ここでは、小・中学校で共通している顕著な傾向を示す項目を紹介します。

※( )内の数字は、全国との差1%を1ポイントとしています。また、プラスは「+」、マイナスは「-」とします。

### (1) 学習時間

①家庭学習の時間は、全国と比べやや少ない。

- ・小学校：平日(△8.3p)、休日(△5.3p)
- ・中学校：平日(△2.5p)、休日(+2.0p)

②塾に通っている児童・生徒の割合(通塾率は、全国と比べやや少ない)。

- ・小学校：45.3%(△1.9p)
- ・中学校：49.5%(△11.5p)

③家で授業の予習をしている児童・生徒は、全国と比べやや少ない。

### 質問紙調査のため、「している」及び「どちらかといえばしている」を肯定的な回答として集計し、全国と比較しました。

- ・小学校：(△2.8p)
- ・中学校：(△6.9p)

### (2) 基本的な生活習慣

①テレビやゲーム、携帯電話(平日各3時間以上)に時間を費やす児童・生徒が多い。

- ・小学校：テレビ(+7.3p)、ゲーム(+1.8p)、携帯電話(+1.4p)
- ・中学校：テレビ(+8.4p)、ゲーム(+3.5p)、携帯電話(+1.5p)

### (3) 自尊意識

①難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している児童・生徒が多い。

- ・小学校：(+2.8p)
- ・中学校：(+3.8p)

④地域や社会とのかわり

- ・小学校：(+3.9p)
- ・中学校：(+12.9p)

### ■結果から分かること

本市の児童・生徒は、テレビやゲーム、携帯電話(スマートフォンを含む)に費



サタデースクールでの個別指導。

やす時間が多く、家庭での学習にかけられる時間は少ないという傾向がみられました。特に、「平日、携帯電話やスマートフォンで3時間以上メールやインターネットをしている」と答えた児童・生徒が、小学校で7.1%、中学校で19.7%でした。学習時間を確保するという点からも時間の使い方を考えていく必要があると考えられています。

また、学力調査と学習状況調査の相関から、「規則正しい生活ができていない生徒ほど平均正答率が高い」、「家で自分で計画を立てて勉強(予習・復習)をしている児童ほど、平均正答率が高い」、「家庭において学校での出来事について話をしている児童ほど平均正答率が高い」、「平日、ゲームの時間が長い児童ほど平均正答率が低い」という結果がみられました。規則正しい生活習慣や学習時間の確保が、学力向上に大切であると考えられます。



市教育委員会では、この調査結果を踏まえ、確かな学力の育成を図るため、一層の取り組みの強化に努めていきます。

●学校教育課 ☎0297-88-6022



小学6年生と中学3年生を対象に行われているサタデースクール。



## 市指定無形民俗文化財

### 「熊田太々神楽」と「興野ささら獅子舞」を奉納

#### ■熊田太々神楽

市指定無形民俗文化財「熊田太々神楽」が、10月12日(日)、熊田西公民館で披露されました。

熊田太々神楽は、明治12年頃に齊藤継定神宮と熊田素菊神宮が習得した舞を熊田の有志に教えたのが始まりといわれています。かつては、会員の長男のみによる口伝秘法で受け継がれていましたが、後継者不足などが問題となり、現在は、熊田太々神楽保存会を中心に技術を傳承し受け継がれています。

当日は、31ある舞のうち、総禮舞や住吉舞、岩扉正開舞など6つの舞が披露されました。笛と太鼓に合わせ舞う姿は、素朴の



熊田太々神楽。

中にも優雅さがあって面白味があると地元の人から愛され続けています。終盤に差し掛かると、保存会による「まき餅」が行われ、にぎわいをみせました。

#### ■興野ささら獅子舞

10月18日(日)には、市指定無形民俗文化財「興野ささら獅子舞」が興野集会所と日枝神社で披露され、地域住民などの多くの見物客が訪れました。

興野ささら獅子舞は、牡獅子、中獅子、牝獅子が笛の音に合わせて腰太鼓を打ち鳴らしながら奉納する舞で、約180年もの歴史を誇り、現在まで繼承される伝統のある行事です。

当日は、清々しい秋晴れのな



興野ささら獅子舞。

か、地元の小学生3人による三獅子が興野集会所で舞を披露したあと、急峻な山道を登り、日枝神社へ。同神社に到着したあと、境内で舞を奉納しました。獅子の舞の合間には「おかめ」や「ひよっとこ」などの道化が登場し、ひょうきんな動きで興を添えました。

境内に訪れた見物客は、荘厳で優美な伝統文化に見入り、堂々と舞う獅子たちに温かい拍手を送っていました。

## シリーズ 市の文化財 第55回



### 市指定史跡 菅谷八郎右衛門の墓(南一丁目)

江戸時代末期、烏山藩の家老を務めた人物です。天性寺に墓碑が残されています。

この時期、烏山藩では人口減少、農地荒廃などの問題が表面化し、その対策に苦慮していました。菅谷は、二宮尊徳が実践する「報徳仕法」が宇津家桜町領(現:真岡市)復興で大きな成果を挙げていることを知り、烏山への仕法導入に尽力しました。特に、天保7年(1836)の大飢饉では、天性寺の円心和尚などと協力し、尊徳を訪ねて援助を仰ぎ、貸与された物資により領民への炊き出しを行い、多くの人命を救いました。

後年、烏山藩では意見の対立から仕法が頓挫し、菅谷も失意のうちに病没しますが、領民を想い献身的に努力した菅谷の功績は、今でも高く評価されています。

## 那須烏山 そば組合 130食分のそば振る舞う

市内6店舗のそば店で構成される那須烏山そば組合(長山登組合長)では、10月21日(木)、特別養護老人ホーム愛和苑で、利用者やスタッフに、約130食分のそばを振る舞いました。



そば打ちを披露する組合員。

これは、同組合による事業の一環で、日頃お世話になっている地域に恩返しをしようと昨年からはまった施設訪問です。訪問では、組合員がそれぞれ持ち寄った材料を使用し、利用者の目の前でそば打ちを披露。その後、打ち立てのそばを振る舞いました。この日を心待ちにしていた利用者たちは、そば打ちパフォーマンスに目が釘付け。そばが提供されると、美味しさのあまり笑みがこぼれていました。

長山組合長は、「これから、そばを通して地域活性化をしたい」と話していました。